

Let's Know Hiroshima Castle.

しろや！ 広島城



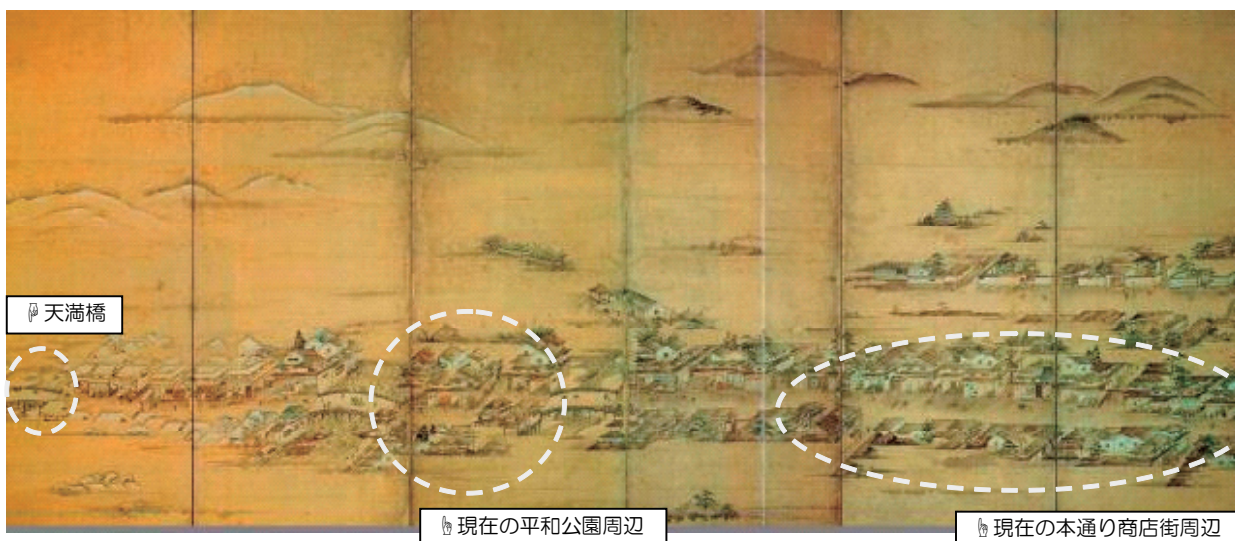
NO. 20

江戸時代の広島城下のくらしをちょっと拝見！

広島城では、「広島城下絵屏風」(広島市指定有形重要文化財)を展示しています。この屏風には江戸時代に広島城下を東西に貫いていた西国街道を中心に城下町の様子が描かれています。いつ頃、誰が描いたものなのか、残念ながらわかっていませんが、屏風から当時の人々の様々な生活様様を垣間見ることができます。今回は広島城下絵屏風に何が描かれているのかをご紹介します。



右隻



左隻 (上の写真の左側に続きます)

1. どの辺りが描かれているの？ ～屏風に描かれている範囲

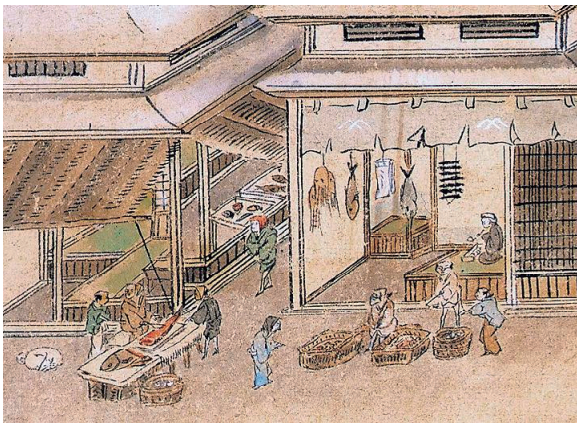
現在の的場町（南区）から堺町（中区）までの西国街道を中心とした城下町の様子が描かれています。屏風右側から猿猴橋、京橋、正光寺や流川、胡神社、本通商店街、元安橋、猫屋橋（現在の本川橋）を通過して、左端の小屋橋（現在の天満橋）まで。屏風に描かれた辺り一帯は、西国街道の中でも、多くの商人や職人の町家が立ち並び、賑わいをみせた場所でもあります。

2. 何が描かれているの？ ～城下町の賑わいと発展の様子

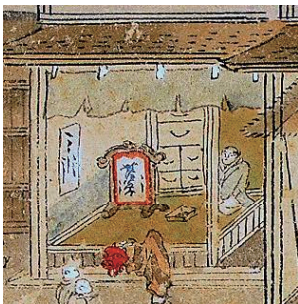
屏風をよく見ると、城下に暮らす人々の様々な生活の様子を見ることができます。それらの一部をクローズアップしてみましょ。う。

その1 日常生活に必要なものはこちらで ～城下町生活用品店

西国街道沿いには様々な商いをする店が描かれています。魚屋や野菜、酒などの食料品や薬を扱う店、筆や筆筒、油を扱う店などが見られます。猫屋橋から元安橋の周辺は、広島藩の船着場や米蔵などがあったことから、大店が集まり、多くの人が行き交い賑わった所です。草履や笠を扱う店も多く見られますが、道行く旅人も多く利用したかもしれません。



魚屋



薬屋



草履を扱っている店

また、店を構えず、天秤棒で商品を担いで売り歩く「振り売り」と呼ばれる人の姿もあちこちに見ることができます。



振り売り

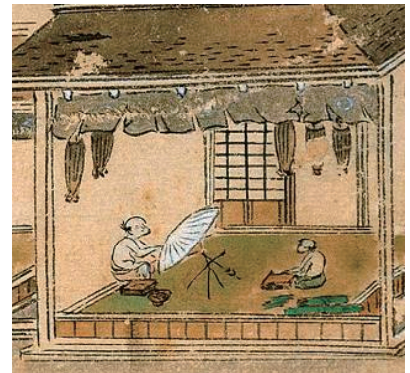
その2 江戸時代のリサイクル～和傘の場合

江戸時代の人々の生活は最先端のエコライフともいえるのです。物資が限られ貴重だった江戸時代、壊れたものは何度も修理し、最後まで大切に使いました。

例えば、城下絵屏風では、「古傘買い」と呼ばれる壊れた傘を集める人の姿や傘貼り職人の姿も見られます。傘の場合、折れたり破れた部分を直すだけでなく、傘からはがした紙も、魚や漬物など、水気の多いものの包装紙として再利用しました。屏風にはこのほか、布や瀬戸物、羽釜、桶など様々な日用品を扱う店がたくさん描かれています。これらも古着にしたり、割れたり壊れたものを補修するなど、徹底的にリサイクルをしました。



古傘を集める人と
傘張り職人



その3 川と上手に暮らす

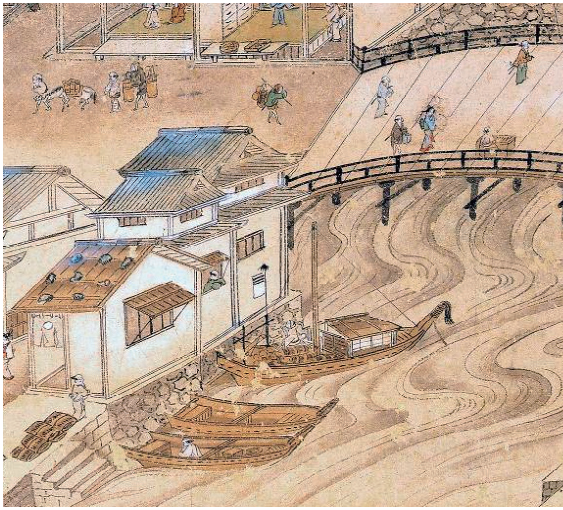
広島城とその城下町は、太田川の河口付近に広がる三角州の上に築られました。そのため、城下絵屏風の中にも、河岸に停泊し荷の揚げ下ろしをする藩の御用船や柴や俵を運ぶ川舟などが描かれています。

また、人を乗せて対岸に向かう渡し舟も見えます。江戸時代の広島城下で橋がかけられたのは、防犯上の理由から一部の例外を除き西国街道筋だけだったため、これ以外の場所では渡し船を利



荷を運ぶ川舟

用しました。生活の中で舟を使うことがとても身近だったことをうかがうことができます。



猫屋橋（本川橋）のもとに停泊している船



京橋下流の渡し舟

その4 力になります！～働く動物

広島城下絵屏風の中にも、牛や馬の姿を見ることができます。現代のようにトラックなどの機械がない江戸時代では、荷物の運搬や農耕具を引いたりするなど、牛や馬は貴重な労働力でした。人々の生活はまさに馬力に支えられていたのです。



働く牛と馬の様子



これらのほかにも、広島城下絵屏風の中には、高札場やうだつのある商家、天守閣や侍屋敷なども描かれています。1組の屏風ではありますが、この中に描かれている城下の生活に関する手掛かりをもとに、江戸時代の広島城や城下町に暮らす人々の様子を大きく捉えることのできるのです。（川橋）

城下町こぼれ話

「江戸時代の広島城下に 大八車は無かった！」



「広島城下絵屏風」には馬・牛・天秤棒・挟箱などで物を運んでいる風景が見られます。ところが…、時代劇でおなじみの大八車などの荷車が一台も描かれていないのです。

そもそも大八車が一般的に使われ始めたのは、江戸で起こった明暦3年（1657）の大火の後といわれています。しかし、幕府により江戸・尾張（名古屋）・駿府（静岡）以外での使用は禁止されていました。大八車より小さな荷車で「べか車」と呼ばれるものも登場しましたが、これは大坂、京都のみ使用が許可されていました。ですから、広島城下には荷車がなかったのです。

広島城下に大八車が入ってきたのは幕末のことでした。その事情について、旧広島藩士小鷹狩元凱は著作「広島雑多集」で次のように記述しています。「自分が18・9才のころ（文久3年～元治元年（1863～1864））、広島には荷車というものが一切見られず、米麦薪



わしらの時代に
あったらう・・・

炭そして木材は人の肩と馬の背で運ぶより他に方法がなかった。（中略）元治元年の冬の長州征伐のおり、各藩は軍隊を率いて広島に集まった。その時、軍の総督であった尾張大納言（徳川慶勝）の軍は荷車に荷物を満載して広島に入ったのだ。（中略）翌年、軍が退いた後、人も物も引き払って残るものはなかったが、荷車のみは各所に取り残されており、やがてこれを使って荷物を運ぶ者が現れた。藩の役人がこれを訊問したところ、彼は「これは尾張藩の置き土産なので、車が朽ち果てるまでは黙認してくれ」と答えたという。役人もそれ以上深く咎めず、黙認のまま明治維新となった。」つまり、尾張藩の大八車には許可が下りているのだから、使ってもよいだろうという理屈をこねたわけですね。

やがて明治維新を迎えて幕府の禁制は解かれ、荷車は荷物の輸送に大いに役に立つようになったのでした。（本田）

広島城キャラクター大辞典

各地で「ゆるキャラ」がブームの昨今ですが、広島城にも多くのキャラクター（以下キャラ）がいるのを知っています？ ほとんどが職員の手作り。愛すべきキャラを時系列に見てみよう！



①



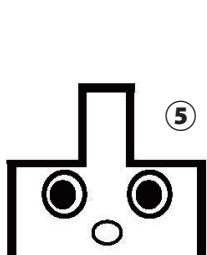
②



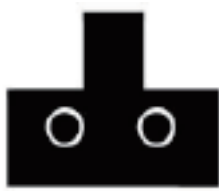
③



④



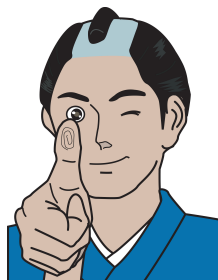
⑤



⑥



⑦



⑧



⑨

「おっふおん！ 拙者は忍者芸州齋」の声が印象的な忍者「芸州齋」(①)は、1層の映像コーナーにしか登場しませんが、築城の頃から城を警護しているという設定で、天守閣の展示リニューアルが行われた平成元年以降活躍しています。ちなみに芸州齋の孫の設定の忍者キャラが、「あき丸」と名付けられました。最近姿を見なくなりました…。

その後、今から10年ほど前に登場したのが「こいこちゃん」(②)というキャラです。広島城は鯉城と呼ばれるから(カープの名称の由来です⇒詳しくは「しろうや広島城！15号」)なのですが、今は3D化され、「お城ってなあに」という刊行物で登場し、「しろウサクくん」(③)と一緒に親しまれています。

ここ5・6年はキャラが増えまくり！ 第5層の屋根をモチーフにした「お城博士」(④)は広島城についていろいろ教えてくれ、主に広報紙「しろうや！広島城」で登場します。

広島城について勉強中の「しろうとくん」(⑤)、勉強して詳しくなった「くろうとくん」(⑥)は、最近はホームページでもおなじみになりました。

また、企画展から生まれたものでは、小学5年生の「島広史」(⑦)くんとその先祖のさむらい「嶋広之進」(⑧)がおり、武家屋敷などの常設展示で登場します。フィールドワークなどでは、「イッシー」(⑨)が近頃目立っています。

あと、キャラクターではありませんが、広島城が天守閣再建50周年を迎えた時に基町高等学校の生徒がデザインしたシンボルマーク(右)もあります！こちらも忘れないでね。(玉置)

広島城
HIROSHIMA
CASTLE



しろうや
!
広島城

編集・発行

財団法人広島市文化財団
広島城

〒730-0011
広島市中区基町21-1
電話：082-221-7512
FAX：082-221-7519

平成21年6月25日発行

広島城利用案内

開館時間 9:00～18:00
(12月～2月の平日は9:00～17:00)
入館の受付は閉館の30分前まで

入館料 大人360円(280円)
小人180円(100円)
()内は30名以上の団体料金

休館日 12月29日～1月2日

ホームページ <http://www.rijo-castle.jp>



携帯サイト